

太原の市内を歩き回る

北清 康二

山西省の太原とはどのような地域なのか？なかなかイメージがつかめません。一つには、まだあまり出歩いていないということもあります。

高級班の授業は、「聴力」、「会話」、「閲読」、「精読」の4教科です。毎日1課目2時間の2教科で4時間、1週間で20時間になります。意外と少ないように思われるかもしれませんが、精読の授業を例にとると、16課278頁の1課を1週間で終わらせる速度で進みます。教科書は兎にも角にも文字の量が多い。生徒は、当初は6から7人でした。しかし韓国人の一人が帰国し、残りの若い人も出たり出なったりで最近私と中年の韓国人女性二人の3人になることもしばしばです。授業中は質問の矢が飛んできます。この人数だと避けようがありません。予習・復習は不可欠です。加えて宿題が出されます。みなヒューヒュー言っています。

ここで、なんとか土曜日を工面して太原市内を回ることになりました。しかし、広い太原市内、行き先に迷います。何かターゲットになるような所はないのだろうか？インターネットで寺社、廟を検索してみると、地図や旅行案内では、あまり見かけませんが、太原市内に結構な数の寺社、廟が東西南北に点在しています。そこで、寺社、廟を目標にして、太原市内を歩いてみることにしました。

Map for 太原寺廟



最初に、分布図を見て、行き先を決めます。市内の西北西にあるEの場所を選びましょう。このMapの寺社、廟名はローマ字で記載されています。「Doudaifu Temple」とローマ字表示です。声調が抜けているので、どんな漢字か類推してさらに検索を続け、この場所は竇大夫祠と判明しました。漢字名が判れば、ネットにアップされた少ない情報から、場所の概要、バス路線経路を調べることができます。ヒットした中国人の旅行記から、近くに土堂大仏なるものもあることが分かりました。

中国のネットは規制が厳しく、アクセスがかなり制限されます。しかし、政治関係を除けば、各種の情報がアップロードされていて中国のネット社会はとても便利に感じます。手元に印刷機がないので、経路と行き先周辺の簡単なMAPと周辺の地名（村名）を手書きでメモして持っていけるようにします。



土曜日、もう一人の日本人老留学生を誘って出発しました。公共バスの山西大学から終点の中北大学までは、乗り換え1回を含め30.8km、1時間半の道のりです。共に太原市内なので、バスカードが使える、片道1元です。

中北大学の正門を望む招呼駅で下車し、ふえん（さんずいに分）河沿いに、竇(Dou)大夫祠を目指します。太原市内では見られない山の裾野に位置します。このあたりの河はとてもきれいです。川辺で、女の子が二人テントを張っています。生憎、間に金網のフェンスがあり、最近の余暇の過ごし方の取材はできませんでした。



竇 (Dou) 大夫祠は川べりに静かな佇まいを見せて立っています。



竇大夫どんな人物なのか？説明文によると、戦国時代の晋国を収めていた人物のようです。「大夫」は官名で、先秦時代、国王の下に「卿」、「大夫」、「士」と三つの職階があったそうです。生年は不詳ですが、紀元前 494 年に殺されているようです。太原の市内の水利に尽力されたことに後代の人々が感謝して祠を作ったらしい。創建は不明ですが、唐代には祠の存在を示す記載があるそうです。現在の建物は、河の氾濫で埋まったため、宋代 1086 年に移築され、元代 1343 年に再建されたようです。



敷地は横幅 800m 奥行 400m の広さ、私たち以外の参観者は数人で、30 分もすると見終わってしまいました。

次に、土堂大仏を目指します。地図で調べきれなかったので、ふえん河を渡ったら右に行くのか、左に行くのかがわかりません。そこで、橋の上で聞いてみることにしました。

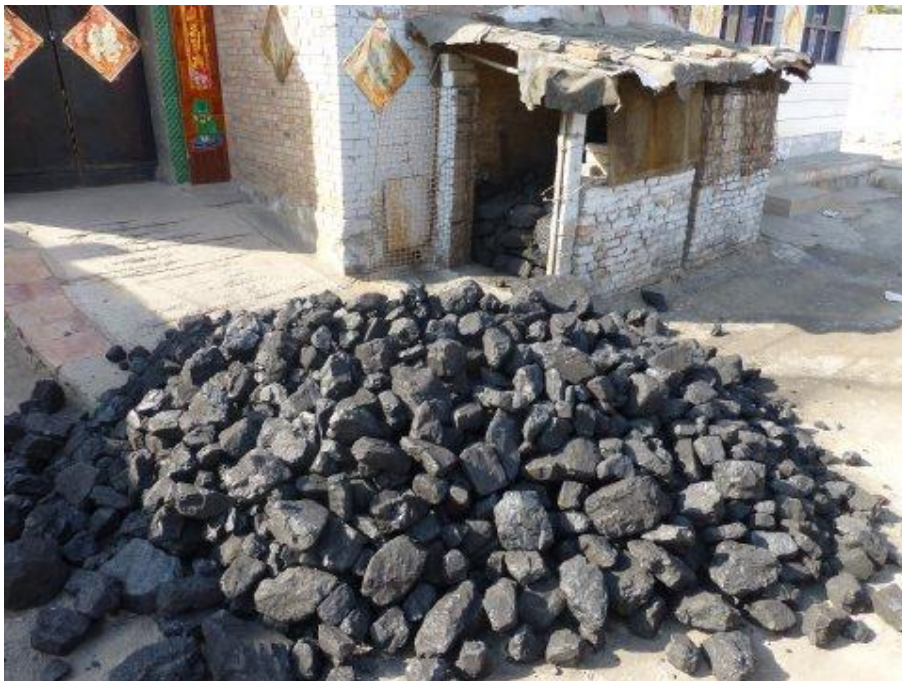
1. 大学生：予想どおり知りません。地元民でないし、親の世代が宗教と断絶しているので興味もないそうです。
2. 小学生：普通語は良く通じますが、大学生同様に大仏の存在を知りません。
3. 30 代の地元の者らしい女性：存在自体を知りませんでした。言葉に地方訛りが混じります。
4. 70 前後：ようやく場所を聞き出せました。しかし、地方訛りが強く、聞き取るのに苦労します。左折すると、道端に標識があるとのことでした。



農家のレンガ作りの壁に囲まれた道を通り向け、坂を登ると、そこに寺がありました。正式名は「浄因寺」のようです。



背後の崖に半分埋まった殿内に高さ 9m の大仏が鎮座しています。この大仏寺は北齊時代（公元 550 年-577 年）に創建されたと記載がありました。北齊は中国南北朝時代の北方王朝の一つ。敷地内には大雄殿、羅漢殿、地藏殿があり、それぞれの仏像が飾られています。お寺は幅 300m 奥行 400m 程の大きさなので参観にさほど時間はかかりません。農村地帯の暖房は石炭のようです。各家の前にひと冬分の石炭が準備されていました。



歩いて歩き回ること、見えてくるものがあるだろうと考えています。